

1 基本理念

「すべての子どもが夢を描けるまちをめざして」

子ども一人ひとりが未来を創るかけがえのない存在として、それぞれの権利や多様性が尊重され、将来に夢を描きながら、様々なことにチャレンジし、自分らしく健やかに成長できるまちをめざす。

誰もが安心して子どもを生み育てられるよう、社会全体ですべての子どもと子育て家庭を支えとともに、すべての子どものウェルビーイングの実現をめざす。

2 基本的視点

視点1	すべての子どもの権利の尊重	子どもを権利の主体として認識し、その権利を保障し、多様な人格や個性を尊重しながら、一人ひとりの最善の利益を図る。
視点2	すべての子ども・子育て家庭の支援	すべての子ども・若者、子育て家庭を対象に、それぞれの状況やライフステージに応じて、切れ目なく、きめ細かに支援する。
NEW 視点3	一人ひとりの視点に立った支援	子ども・若者、保護者の視点に立ち、その意見を聴きながら、施策を構築・実施する。
NEW 視点4	必要な人へ確実に届く支援	様々な状況にあるすべての子ども・若者、子育て家庭へ必要な支援を届けられるよう、プッシュ型・アウトリーチ型の支援を行う。
視点5	社会全体での支援	市民や事業者、地域、学校など、あらゆる主体と連携し、それぞれの役割を果たしながら、社会全体で子ども・若者、子育て家庭を支援する。

3 施策体系（★：専門委員会③に関連する施策）

NEW 目標1	子ども・子育て家庭にやさしいまちづくり 【全年齢】	施策1 子どもの権利の尊重と意見表明支援 ★ 施策2 社会全体で子育てを応援する環境づくり
目標2	安心して生み育てられる環境づくり 【主に妊娠前～乳幼児期】	施策3 プレコンセプションケアの推進と親子の心と体の健康づくり 施策4 幼児教育・保育の充実と多様なニーズへの対応 施策5 相談支援体制と情報提供の充実
目標3	子ども・若者が自分らしく健やかに成長できる環境づくり 【主に学童期～青年期】	施策6 子どもの様々な学び・体験機会の提供 施策7 子ども・若者が安心して過ごせる場づくり 施策8 悩みや問題を抱える子ども・若者の支援
目標4	一人ひとりの状況に応じてきめ細かに支援する環境づくり 【全年齢】	施策9 障がいのある子どもや発達が気になる子どもの支援 ★ 施策10 児童虐待防止対策と社会的養護体制の充実 ★ 施策11 ひとり親家庭など様々な環境で育つ子どもの支援 ★ 施策12 子どもの貧困対策の推進 ★

4 施策別の現状と課題及び方向性（専門委員会③関連）

目標1	子ども・子育て家庭にやさしいまちづくり 【全年齢】	施策1 子どもの権利の尊重と子どもの意見表明支援 (現状と課題) ・こども基本法において、子どもの権利の尊重や子どもの意見表明等の基本理念にのっとり、子ども施策を策定・実施することが求められている。 ・市の意識調査では、自分の意見が大切にされていないように感じるがあると答えた中高生が2割超となっている。 施策の方向性 ・社会全体で子どもの権利を尊重し、意見を大切にしよう普及啓発を行う。 ・子ども施策の策定・実施に子どもの意見を反映する取組みを進める。 ①子どもの権利の尊重に向けた啓発 ②子どもアドボカシーの推進
目標4	一人ひとりの状況に応じてきめ細かに支援する環境づくり 【全年齢】	施策9 障がいのある子どもや発達が気になる子どもの支援 (現状と課題) ・発達障がいへの社会的な理解の広がり等により、療育センター等における新規受診児数が増加し、診断待ちが発生している。また、福祉と教育の連携強化など切れ目のない支援が求められている。 施策の方向性 ・障がいの早期発見・早期支援や支援・療育体制の充実に取り組む。 ・発達障がい児支援の充実に取り組む。 ①早期発見と療育・支援体制の充実 ②特別支援教育の推進 ③放課後等における支援の充実 ④発達障がい児の支援 ⑤自立や社会参加に向けた相談・支援
		施策10 児童虐待防止対策と社会的養護体制の充実 (現状と課題) ・相談メニューの増加や社会的意識の高まり等により児童虐待に関する相談が増加し続けている。 ・保護者が悩み等を抱えたとき、相談先が分からない、気軽に相談しづらいといった声がある。 ・里親等養育の包括的な支援や社会的養護経験者の自立支援の充実が求められている。 施策の方向性 ・虐待兆候の早期把握・未然防止に向けたアウトリーチ型支援や在宅支援強化を図る。 ・身近な相談支援体制の充実や関係機関との連携強化等に取り組む。 ・様々なニーズに対応できるような社会的養護体制づくりに取り組む。 ①アウトリーチ型支援・在宅支援の充実 ②身近な相談支援体制の充実 ③関係機関の連携強化 ④親子関係再構築支援 ⑤里親等養育の推進 ⑥養子縁組への移行支援等 ⑦自立に向けた支援
		施策11 ひとり親家庭など様々な環境で育つ子どもの支援 (現状と課題) ・母子家庭の就業率は高く、最も多い就労形態は正社員であるが、依然として厳しい経済状況にある。 ・家族の日常生活上の世話等を行っている子どもや外国にルーツを持つ子ども、性的マイノリティの子どもが、悩みや困難を抱えている場合がある。 施策の方向性 ・仕事と子育てを両立しやすい環境づくりや、ひとり親家庭の支援の充実に取り組む。 ・家族の日常生活上の世話等を過度に行っているヤングケアラーの支援の充実に取り組む。 ・外国にルーツを持つ子どもや性的マイノリティの子どもを含むすべての子どもが、互いの違いを認め、尊重し合う環境づくりに取り組む。 ①ひとり親家庭の生活支援 ②ひとり親家庭の就業・自立支援 ③ヤングケアラー支援 ④外国にルーツを持つ子どもや性的マイノリティの子どもの支援
		施策12 子どもの貧困対策の推進 (現状と課題) ・収入が低い世帯ほど、子どもの生活環境が安定しない、学習が遅れがち、体験機会が少ないなどの傾向があり、家庭の経済状況によって様々な格差が生じている。 施策の方向性 ・子どもが適切な養育・教育等を受け、多様な体験機会を得られるよう、子どもの貧困対策を総合的に推進する。 ・支援を着実に届けられるよう、関係機関との連携や情報提供の充実等に取り組む。 ①子どもの学習支援の推進 ②体験機会や居場所の充実 ③情報提供の充実